ヤングケアラー×子ども食堂
～子どもの未来を拓く八王子市に～

Young carer × Children cafeteria
～Hachioji City opens up the future of children～

グループ名：Kind
井関 春香，塩見 蘭奈
指導教員　青野　健作

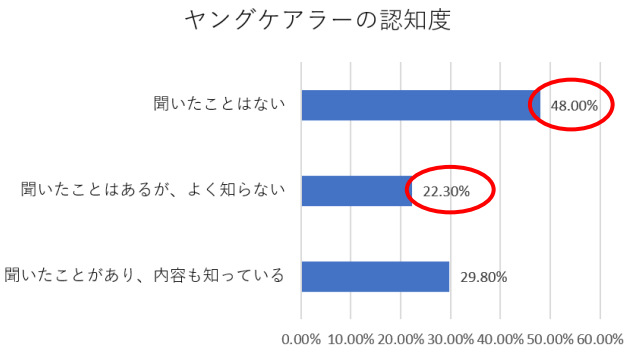
創価女子短期大学　国際ビジネス学科　　青野ゼミナール

キーワード：ヤングケアラー，子ども食堂，SDGs，食育，居場所

1. 目的と現状分析

子ども食堂の数は、全国で 2012 年の段階で 9 件だったが、近年は更に増え続け 2021 年の段階で 6,007 件になり、5 年間で 18 倍以上に増加した。また、東京都は全国最多の 747 件で、その中でも八王子市には 24 件もの子ども食堂がある。そこで、八王子市の子ども食堂を、学校だけが唯一の逃げ場となっているヤングケアラーにとって必要な「居場所」「信頼できる相談場所」「自由な時間を過ごせる場所」として利用できる環境にしたいと考える。

[図 1]は日本総研が令和 3 年度に行ったヤングケアラーの認知度に関するアンケートである。「よく知らない」または「聞いたことはない」と答えた人が合わせて 70.3%という結果だった。このことからヤングケアラーの認知度は非常に低いことが分かる。 **[図 1] 日本総研　令和 3 年度**



対象：日本全国 20 代から 70 代以上の男女　　n=2400

八王子市は、平成 27 年に策定した第 3 次子ども育成計画で「みんなで育てる みんなが育つ はちおうじ」を基本理念に掲げ「子どもにやさしいまち」の実現を目指して、子どもが安心して本音を話せる環境作りを行ってきた。

私たちは、八王子市を誰も置き去りにしないまちにするために、可視化されにくい「ヤングケアラー」の認知度がとても低いという問題点に焦点を当て、子どもたちを救っていくべきだと考える。そして、ヤングケアラーの精神的負担と時間・お金の負担を軽減することを目的に、子どもだけでなく、ケアされている当事者、また第三者が集いやすい居場所を作りたいと考える。

以上の理由から、私たちは、八王子市発「子ども食堂×ヤングケアラー」をテーマとしたヤングケアラー支援策を提案する。

2. 提案内容・効果

提案内容は以下の 5 点である。

① 子ども食堂の**開催頻度**を増やし、また、ポスターを学校に掲示するなど子ども向けの分かりやすい**広報**をする。ヤングケアラーに低価格で温かく栄養がある食事を提供でき、食事や食材の提供によるお金の負担、家事の時間の負担の軽減に繋がる。そして、子ども食堂が人とコミュニケーションが取れる居場所となり、大人に

悩みや現状を話すことでヤングケアラーの精神的負担を減らすことができる。

② 管理栄養士監修の栄養価が高くて比較的安価な材料の家で作ることができる**食事のレシピをカード**として配布する。家で活用できる栄養価が高い食事のレシピが得られる。

③ 運営側のヤングケアラーの理解を高める**啓発活動**を行う（リーフレットの配布、研修会、動画視聴など）。ヤングケアラーからの相談内容に対し、適切に支援につなげられるよう運営陣、スタッフの研修を実施することで、スタッフのヤングケアラーの認知度と理解度をあげることができる。

④ 子ども食堂の運営スタッフ・費用・物資の支援を八王子市や**企業からスポンサー**を募る。SDGs に貢献する企業活動になるとともに、子ども食堂を体験した子どもやヤングケアラーにとって恩返しの場となり、将来的な就職先に繋がる。

⑤ 八王子**農家が作った野菜**を子どもに提供する。また、形が変形しているためスーパーで売られない廃棄食材などを積極的に使用する。子ども食堂を通して、八王子特産の野菜を知り食べる体験を行う**食育**（以下イメージ図）ができる。また、**食品ロス削減**の貢献に繋がる。

3．おわりに

ヤングケアラーは家事や介護に追われ、子ども食堂に来る時間を確保することが難しく、ヤングケアラー本人や家族に来てもらうことが課題である。そのため、ヤングケアラーの呼び込みを重要視する必要がある。また、運営スタッフの負担が大きく、頻繁に開催される子ども食堂の運営はアルバイトと同じ時間が必要になるため、給与や支援が必要になるため市が動く必要がある。

ヤングケアラーの問題は国の政策だけでは解決できない。相談できる人や場所を市から作ることで、本当に困っているヤングケアラーを救うことができる。また、本提案が子どもの未来を拓くことに繋がり、子どもの未来は市の未来だと考える。

私たちは、本提案によって「ヤングケアラー」を救う第一歩を八王子市から踏み出したいと考えている。本提案は SDGs1（貧困をなくそう）、SDGs11（住み続けられるまちづくりを）、SDGs12（つくる責任、つかう責任）にも貢献するものであり、子ども食堂の運営を持続可能かつ意味のあるものにすることで、八王子市に住むヤングケアラーにとって希望となる居場所を作りたい。そして、子どもが希望を持って活き活きと育つことは、八王子市が 1 番求めていることであると考える。

【参考文献】

八王子市子ども・若者育成支援計画「ビジョンすくすくはちおうじ」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/001/p026425_d/fil/kowakekeikaku.pdf

日本総研「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102439

タウンニュース八王子版「コロナ禍で増えたもの」
https://www.townnews.co.jp/0305/2021/05/07/573049.html

むすびえ「「地域みんなの食堂」となった「こども食堂」　コロナ禍でも増え続け、6,000 箇所を超える」https://musubie.org/news/4524/

馬の丈　夢食堂
https://umanojo.jp